

あけぼの学園人権フェスタ発表まとめ

あけぼの学園の役割

○四日市市の特別支援保育体系に基づき、支援の必要な乳幼児の早期支援・保育の場として、保育園・幼稚園・こども園生活前の基礎的指導を行います。

○発達上の問題や支援の必要がある子どもに、心身の基礎的発達を促すための支援を行います。

○保護者に、子どもについての理解や育児面・療育面などについての研修・相談・助言を行います。そのため、『保護者とともに通園すること』を基本としています。

○保健、医療、福祉、教育などの専門機関・関係機関との連携により、早期から一貫した継続的な支援に取り組みます。

あけぼの学園が保護者とともに通園する目的

○人間関係の基本となる保護者との愛着関係を深め、それを基点にし、いろいろな大人へと広がり、友だちへと広がります。

○安心できる保護者の方がいることで、やってみようという挑戦の気持ちが出たり、不安なことや困っていることも大好きな人と一緒なら大丈夫と乗り越えたりします。

○保護者の方と一緒に遊んだり、過ごしたりすることで、いろいろな感覚を使って一緒に感じたり、学園での楽しかった遊びを保護者の方とお子さんと共通理解ができたりします。

あけぼの学園のめざす子ども像

- ①丈夫な体の子ども
- ②要求の出せる子ども
- ③表情の豊かな子ども
- ④友だちと遊べる子ども

子どものありのままを受容しながら、それぞれの子どもの可能性を最大限に引き出す支援をしています。



『発達の基礎をつくろう』

あけぼの学園では、土台の部分をしっかりしたうえで、成長していけるといいなと思っています。子どもたちの発達を木に例えると土台の部分は『ねっこ』の部分です。集中する力・自信などの実をつけるためには、ねっこがしっかり地にはり、栄養をたっぷり上へ送れるような太いねっこが必要です。学園の遊びは、そんなねっこを作ることができるよう考えています。

<左図> たのしくあそんで感覚統合 佐藤和美著 より抜粋

